VIVIENNE'S DIARY –2014 年 7 月

7/1（火）：4 夜続けて外出のお誘いが。私にとっては珍しいことです。皆さんご存知かと思いますが、特別な用事、例えば劇場や音楽を聴きに行く時以外は、私は家で過ごすのが好きなのです。今夜は、私たちがデザインしたヴァージンエアーの制服のお披露目の日です。このコレクションをとても楽しみました。スチュワーデスの制服をデザインするだけでなく、給仕しやすいよう機能的にする必要がありました。スチュワーデスは本当に素敵に見えました。誰がその髪をやったのか、髪は全て後ろから束ねられ、頭の上に高く結ばれ、よくできていました。私はスチュワードの制服も生地と微妙な色合いの糸が混ざっていて好きでした。

一つ、シャツの襟が小さすぎることが気になりました。―私は小さな襟が嫌いなのです。それは変えます。生地はとてもエコフレンドリーで、私たちはそれに懸命に取りかかっていました。ブロンディーがそのイベントで演奏していましたが、こんなプライベートパーティーのために演奏するなんて、とても退屈だったに違いありません。私もそうでした。

7/2（水）：ブライアン・アダムス基金の資金調達のためのピクニックに行きました。この基金は BLESMA、イギリスにいる盲目の退役軍人、戦闘のストレス、SSAFA、戦争孤児をサポートするのが目的です。会場はチェルシーホスピタルで、中にある教会でオペラの演奏もありました。このレンの建築物は黄金比率、熱望と抑制の調合、完璧です。ブライアンが初めに少しだけ歌いました。彼は素晴らしい声の持ち主です。歌うことが好きなはずです。今でも１ヶ月に１度は世界中でギグをしています。そういうわけで、他に興味があること、例えば写真を撮ったり家族との時間を過ごしたりとする時間があるのです。彼は料理の腕前もすごいです。そしてヴェジタリアン。私たちはエヴァ・ハーツィゴヴァと、彼女の夫グレゴリオと話をしました。

英国海兵隊のマーク・オームロッド。クリスマスイヴにアフガニスタンで
パトロール中に爆弾を踏み、両足と右手を失った。

7/3（木）：トレイシー・エイミンの誕生会でマークズクラブへ。話もできないほどたくさんの人達がトレイシーのために集まっていました。ここ何年も彼女には会っていなかったのに。彼女は、次は私たちに、一人で会いに来て、24 時間一緒に居ると約束しました。彼女のエージェントは、ホワイトキューブのジェイ・ジョップリンです。彼女のお父様はジェイを誇りに思っているようで、「私の息子を知っていますか？」と言ってきました。私がお父様に向けた目線がジェイを焦らせ、「ヴィヴィアンはモダンアートが好きではないんだよ。」とお父様に伝えていました。

　そこでもエヴァとグレゴリオに会って、また話せたことがとても嬉しかったです。彼らは本当に親切な心ある人達です。グレゴリオはエヴァを敬慕していて、いつも彼女の意見を聞きたがります。彼女には３人の小さな男の子がいますが、とてもよく働いています。エヴァはスーパーモデルを彷彿させます。とても強くてパワフルで、忘れられない存在です。彼女は実際よりも大きく見えますが、サイズ 8 か 10 が未だに完璧にフィットします。

7/4（金）：シャローン・オズボーンがハイドパークであるオジーのパフォーマンスに招待してくれました。彼女と娘のケリーは、たまに私たちの服を着てくれていますけども、シャローンが私たちのことを思ってくれたのは親切なことだなと思いました。私はヘヴィメタルが大変好きですが、ブラック・サバスや私がヘヴィメタと分かるもの以外は聞いた事がありません。しかしもしそのうちの少しでも聞けば、たちまち好きになります。私はケリーが小さい頃から不正の犠牲となった善人を支えてきた事を知っています。私はオズボーン家の友人達と話していて、彼らは面白いなと気付きました。彼らにはこの世界で起きていることについて、とても良いアイディアがあるのです。シャローンはタフです。一人いつも顔パスでやってくる人を追い払いました。何の混乱もありません。

　とにかく、私はまだブラック・サバスを聞いていません。私たちは彼らの後ろ側の、騒音とビートだけ聞こえる場所にいました。オジーはちょうど端から端へと走り、手を振りかざしています。そしてオーディエンス全体が、彼の真似をして手を振り、波のようになりました。私の息子ベンがここに居なかったのが残念です。彼は一度オジーがどんなに可笑しいかを、体がよじれるほど笑いながら教えてくれました。コンサートが終わってからの渋滞を避けるために、終演前に会場を後にしました。シャローンありがとう。とても楽しかったわ。そしてオジーに会うまで残っていなくてごめなさい。疲れていたのよ。リッチモンドに行ってジェリー・ホールのパーティーに駆け込むこともできましたが、彼女のことは大好きですが、パーティー三昧で駆け回り過ぎでしょう。

7/7（月）：イタリアでの私たちのブランドのパートナーでもあり、親愛なる友人ロジータが１週間私たちの家に滞在します。彼女は毎日スタジオに来ては、模型がどんなものか、または彼女が作らなければならないサンプルややがてメインとなる製品のバリエーションを学んでいきます。

7/10（木）：ヴァネッサ・レッドグレーヴの友人であるシャミ・チャクラバルティと私の秘書タイザーが、ヴァネッサと私はお互いに会った方がいいだろうと言ってきました。私たちは仕事の後、ヴァネッサに会えると感激しながらハマースミスのレストランまで自転車に乗って行きました。しかしシャミは、テレビに出るから早めに（22 時頃）帰らなければならないと私たちに伝えました。シャミは水面下で監視をする政府（労働党）の卑劣な活動が事態をさらに悪くしていることについてテレビでコメントをする予定です。

ヴァネッサはとても明確に政府の監視に反対しています。政府に対する私の意見は、政府はとても馬鹿だと言うことです。もし彼らが私を監視したって、何の違いも生まれませんよ。例外は、彼らが色んな所でミスをおかすことによって、間違った人達を彼らの妄想の犠牲者としてしまうことです。機密情報だからと言って、人を誘拐したのに理由を教えてもくれないのです。そうして人を傷つけ、その鍵となるものを捨ててしまうのです。―しかし、政府は既にそういうことをしているのです！（私たちはそれが他の人に起こり得ることをいつも思っていないといけないという、このおぞましい容認。）

いずれにしても、この事態はさらに大きくなりますよ。―オーウェルの 1984 の寸前まで―私たち誰もが犠牲者となる可能性があります。同時にほとんどの人は機密情報が存在すると考えており、政府にはそれを得て、それに向かって行動する権利があると容認してしまっています。「1984」でビッグ・ブラザーは存在しなかったことを思い出して下さい。しかし人々は彼の存在を信じていた―そうでしょう！機密情報用のコンピューターファイルなんて必要なかったでしょうに―政府はそれが必要であったかのようなふりをただしただけです。彼らは互いの情報に頼り―ヒーローであるウィンストン―ウィンストンの近所の娘は、彼女の父親を密告しました。ウィンストン自身は、そのシステムが嫌いだったので、ある男にだけ感情を出していましたが、最終的にその男はシステムのエージェントであることが分かり、その結果ウィンストンは自身を罠にはめてしまったのです。これと同様に、そのシステムは勝手な犠牲者を選出してしまっているのです。（特に今日、もしもあなた自身がイスラム教徒であるならば―シャーカー・アーマーになにが起きたか調べてみて下さい。）

まだあります。それはブラックリストに載った人達は組合運動に加担した、または政府のポリシーとは反対立場にいたため一生仕事を得られないということです。これはスタインベックの「怒りの葡萄」で明らかにされおり、万国共通の事実です。そしてそのことがまさに私たちを「思考警察」の元へと連れて行きます。

私はこのことにもっと注意を払って、日記とは分けて、クライメイト・レヴォルーションで徹底的に書くかもしれません。まだたくさん考えることがあるのです。（私たちは、私たちにもそれが起こり得るだろうと思い始めています。）

シャミのアメリカ人の友人が、不安を抱えて最近彼女に会いに来たそうです。理由はシャミが監視下に置かれていて、彼女自身も危険人物としてマークされるのではないかと思ったからだそうです。

１週間後、パメラが来て、ジュリアン・アサンジに会う約束をつけました。彼女の息子は、彼女がカリフォルニアには帰って来られないのではないかと心配していました。ジュリアンとエドワード・スノーデンはアメリカが最も欲しがっている男達です。—理由は彼らがそれを拒否しているからです。監視は包括的な恐れとビッグ・ブラザーの容認を引き起こします。「1984」では、人々はビッグ・ブラザーをまるで保護者のように好きになっていました。—自分達の保護者が、自分達自身から来ていようとも。

私はヴァネッサを、5 年ほど前のエウリピデスの劇「ヘカベー」で見た事があります。トロイの闘争の後、トロイの女王ヘカベー（ヴァネッサ）はギリシャの捕虜となりました。彼女の将来は奴隷となることでした。彼女の夫のプリアモス王は死んでいて、彼女の子供達も一人ずつ殺されていました。彼女は苦しみから何とか抜け出しました。—ただ床から起き上がって、眠って、ただ起き上がろうとするだけですが。—それが今は非人間的になったのです。生き続けるためには自分に厳しくしなければなりません。それにも関わらず、彼女は息子の遺体を埋める方法を見つけなければなりません。オデュッセウスの裏切りの中で、彼女は最後に残された娘、ポリュクセネーを犠牲にしなければなりません。ヘカベーはこの最後の罪を犯した長官の幼い二人の息子を殺します。

人がそのような怪物に最終的になってしまった時、ヴァネッサは「復讐こそが唯一の浄化作用である」と言いました。生涯をかけてシオン主義の人達が行なう、パレスチナ人に対しての非人道的な行動に対抗するキャンペイナーでもある彼女の経験は、この劇の練習となっていたに違いありません。

ヴァネッサは、ブルックリンにこの劇を持って行った時、監督は劇場全体をテントで覆って観客も巻き込み、キャンプのように見せたと教えてくれました。それは本当に意味があるものだったようで—チケットは売り切れだったそうです！

ケン・ラッセルの映画「ザ・デヴィルズ」でシスタージェアンヌに扮するヴァネッサ。オルダス・ハクスリー著書の実話「ザ・デヴィルズ・オヴ・ロンドン」がベースです。悪魔に取り憑かれたような独占欲を持つ尼僧達がハンサムな僧侶アーバン・グランディエに恋をします。そして悪魔の形をした僧侶が尼僧達をレイプしたと主張するのです。彼は火あぶりにされました。リシュリューは政治の裏に興味を示していました。

7/14（月）：ウェストミンスターにある BBC に。テムズ川と国会議事堂の裏で行なったフラッキング反対運動に対する私の視点を前撮りするためです。

フラッキング賛成派は来ませんでしたが、フラッキング反対のために行なった 5 日間のツアーの後、ジョーと私、そしてチームのみんなが、次に何をすればいいのか考えました。賛成派は私たちのチャレンジを避けたのです。この先も彼らに声をかけ続けるのはあまり意味がありません。それにも関わらず、このバトルの間に小論争を拡げることもありませんでした。私たちは、国を通してのこのバトルの実情を、メディアに警告しました。

7/16（水）：さて、今度は BBC が日中のニュースに私を招待してきました。

彼らは映像を見せ（これは「ソープボックス」と呼ばれています）、私と政治家達がパネリストです。—ケン・クラークとリズ・ケンダル（労働党）—の 3 人がインタビューされました。http://climaterevolution.co.uk/wp/2014/07/17/8812/

私はひとつポイントをついたのですが.....アメリカでのフラッキングが成功しているなんて事実ではありません。今やフラキング業者はピークに達し、お金をなくし始め、倒産しているのです。

ケン・クラークは安心させるように曖昧な表現をしていましたが、要するに、私たちを安心させようとする時点で、彼は自分が話していることについては何も分かっていないのです。私に答える機会があった時、私は丁寧な受け答えをするようなゲームはしませんから、「ケン・クラークが今言ったこと全部間違っているわ！」とだけ言いました。それから彼の主張を覆しました。リズ・ケンダルも同様に酷かったです。労働党の立場からして、安全が確保される限りはフラッキングに賛成だと言いました。もし彼女に問題に専念するだけの 1 デシベル程の知能があったなら、安全性なんてあるわけがないと分かるでしょうに。

彼らの話を聞きながら、私は両手で頭を抱えました。カメラが私の態度を捉えられるよう、手を 1 秒ほどそのままにしておきました。

このよく見えるよう注意を払った態度が、グレートブリテンの人々が直面する最も重要な戦いに、わずかな時間で表現できる最も大事な武器となりました。これが気候の変化を止める初めの一歩になるとは思いませんか？初めの戦いに立ち向かわないで、どうやって二つ目のバトルを戦えますか？

例え皆さんが政治家達の愚かさを暴いたとしても、彼らは何の気にもかけないと分かっています。—特にケン・クラークのような年老いた頭の固い政治家がそうです。—彼らは自分達の権力の中や、メディアからのサポートに平和ぼけし過ぎているのです。それでも私は、私に変わって以下のようにツイートするようシンシアに頼みました。「**ケン・クラークとリズ・ケンダルは人に何が起きようかなんて気にもしないのよ。何て酷い人達なの。**」

次回（もし）私がテレビで話す時は、次のことを覚えておかなければならないと思いました。トリックがあるのです。：質問が何であれ、言いたい事を一つだけ答える。私は何を言うか選ぶべきでした。「フラッキングの井には、トラファルガー広場ほどのスペースが使われるのです。そしてそれが国中に広がるのですよ。それが原因で経済が 10 年から 15 年の間に崩壊し、皆さんの家の価値は 25%下がるでしょう。なぜならば十分なガスが採れるまで、私たちは長いこと待っていなければならないからです。」

話は変わって、ヘルプ！—パート 3 を見て下さい。そこではフラッキングが本当に一部の政府のはったりであることを書いています。それと同時にと

にかく私たちは戦わなければならないということ、そしてなぜそうすることが致命的なのかについても説明しています。

7/19（土）：電車に乗って映像作家のローナ・タッカー、彼女のカメラマン、そしてタイザーとラティテュードフェスティバルに行きました。タイザーが食べ物を用意してくれ、列車の中でピクニックをしました。ダフィーの双子の姉で、グリーンピースで働いているケイティー（一卵性ではありません）も列車を降りてから私たちに会うことになっています。（暑い中）私はいくつかインタビューを受けます。グリーンピース用のステージでは、ジョン・ソーヴェンがと私とフランク・ヒュイトソン（アーティック 30）にインタビューをします。テントも詰められました。ジョンは私たちの生活にある共通要因を探そうとしています。彼は自身の幼少期―私たちに反骨精神が生まれる理由―について話してくれました。

私は、自分の生活が理想的だったと言いました。私の両親は自分の子供達を愛してくれ、私は田舎に住んでいて。そういった経験が反骨精神を逆なでし、私は自分の存在や行動によく気付くようになりました。例えば、なぜ物事はああではなくて、こうでなくではならないの？―特に不公平や苦しみにおいて。なぜ私はこんなにラッキーなの？人生を振り返った時、私の人生をかたどるものがこれなのだなと思います。

フランクは、自身の素晴らしい父親をとても尊敬していると言いました。フランクの父親は、第二次世界大戦で、囚人を撃ち殺すよう命令されたそうです。彼は囚人を小屋の後ろに連れて行き、丸くかがませましたが、殺す事ができずに、走って逃げるよう伝えたそうです。囚人にとってそれはおぞましい瞬間であったに違いありません。囚人に走るよう伝えて、後ろから撃ってくるのは、誰かを殺す時の手法をしてよく知られています。

機会を得たので、今私たちが理解すべき主要な問題について話しました。なぜならば今の私たちの数だけでは気候の変化を止める事ができないからです。緊急事態です！この状態から抜け出す方法は、「地球にとって良いものは、経済的にも良いもの。地球にとって悪いものは、経済的にも悪いもの。」この方法だけです。

もちろん、これは世界を完全に変えるでしょう。なぜならばグリーン経済は、戦争をしない世界だからです。歴史が始まって以来、戦争は原料を確保するために土地を独占しようと遂行されてきました。そして人々からも搾取し、低賃金で労働をさせてきました。それゆえに、そうなったのは当然のことであると言えます。だから気候の変化と戦うことによって、―有限資源の世界から、平和の世界である再生利用可能な資源に変えて行くのです―やが

て私たちは、自分たちが望む世界を手に入れる事ができるでしょう。ただ一つだけ「やがて」というのが長過ぎます。

私からの最も大事なメッセージです。若い人達は理想主義的です。彼らはソーシャルメディアを使うことによって、現在の支配者達を倒す事ができます。クライメイト・レヴォルーションでは、若い人達と一緒に働かなければなりません。それが一番良い方法だと思うのです。政府は、私たちを無視しているように、若い人達を無視する事はできないでしょう。

それでも、物事は素早く変わって行くことができます。フラッキング反対キャンペーンは、政府へのテストだと思っています。私たちは勝ちますよ。古い権力は崩壊しています。アルゼンチンは破綻し、アメリカは 17 兆ドルの借金があります。石油と化石燃料の会社はお金をなくし始め、オイルダラーは崩壊するでしょう。それはアメリカの崩壊を意味します。

フランクは刑務所で過ごした時のことを教えてくれました。寒くて、酷い、酷い、酷い。67 日間も居たそうです。そこで何ヶ月も、何年も、または一生過ごす事になったかもしれなかったのですよ。

コミュニケーション —唯一の手段。

毎日、彼は何の素材からでもいいから糸を作ったそうです。夜になると、受け取ってほしい人の名前を端に書いたメモにそれを結びました。夜に、囚人が窓の外からそれらを吊るし出し、互いの糸が行き交います。約 4 時間後に、返事を受け取ることができます。各階にたくさんの部屋があるので、時間がかかったそうです。受取人だけが、そのメモを開ける事ができました。フランクは、グリーンピースの堅実な戦士です。彼は諦めませんよ。

まだ日がある間に列車に乗って家へと帰りました。列車は各駅停車でした。それなので橋を渡るまでは止まらない列車へと乗り換えました。橋から先はまた各駅停車です。リバプールストリートの駅に着いたのは夜中の 12 時でした。その日一番だったのは、若いグループ（レイヴの参加者）が乗ってきた終点まで２、3 駅という時です。黒人の少年が私たちの斜め後ろの席に座りました。中くらいの大きさのアフロヘアーで、ハンカチを折ってその頭に巻いていました。見ているだけで楽しいので私は彼から目を離す事ができませんでした。彼は私たちの後ろに座っている友達にずっと話しかけていました。彼の友達もハンサムでした。その友達はアフリカ人とインド人のハーフのようでした。素晴らしいミックスです、大きくて。列車を降りた時、彼らは他に 3 人の白人の少年達と緒なのが分かりました。他の子達に比べると一人もハンサムじゃないわね。彼らは一緒に居てとても楽しそうでした。通りにはクラバー達がたくさん居て、女の子達はプラットフォームのハイヒール（踊りにくくない？）を履いていました。どの子もとても魅力的で、まるで映画のスターのような格好をしていました。私はそんなことが街で起きているなんて知りませんでした！だけど最近の子達はどんな音楽で踊っているの？もちろん何かあれば、私たちの耳にも入ってくるでしょうね。

7/21（月）：ジュリアン・アサンジに会いに行きました。お互いに忙しくして会っていなかったので、互いの再会を喜びました。

「1984」で分かるように、政府は真実をねじまげて、歴史に不実を残すのです。しかしこの私たちの世界を変えてくれるものとして、ウィキリークスという事実を伝える媒体があります！―公となっている物を否定するライブラリーとなっており、アーカイブ全てにアクセスできます。とても簡単で、とても賢い。だれでも事実を公表する事ができます。そうすることで公の力が働くことはできません。オバマ大統領―アメリカは、「ウィキリークスはこう言っています.....」と言って暴かれた真実に前置きをつけなければなりません。そうやっておとがめから免れているのです。

私はジュリアン以上に世界の実情を知っている人を知りません。私が提案した、彼のこの知識を本にまとめる計画、気に入ってくれるといいわ。

ジュリアンは私にとても深く哲学的なことを教えてくれました。彼は経験しない限りは本当に何も信じない人です。例として土星の環を挙げましょう。ジュリアンは幼少の頃天文学が好きで、特に土星の環が好きでした。ある日彼は天体望遠鏡で土星の環を見たのですが、その時になって初めて、それまでは土星に環があるなんて信じていなかったと気付いたそうです。それなので気候の変化を彼は信じませんが、多数の人が、気候の変化は存在するというその言葉の重みは受け入れています。（私は世論をたった今見たのですが、「証拠に欠けた判断や確信は、暫定的な確信で、起こりそうなものとして見られる。」）

7/22（火）：パメラが職場に電話をしてきました。彼女は私と一緒にジュリアンに会いに行く予定だったのですが、取りやめ、一人で会いに行くことにしました。アンドレアスと私は、夜にスタジオでパメラと共通の友人、フィリップ・ステイシーとステファン、パメラの夫リックと、息子のブランデンと一緒に食事を取りました。ブランデンとフィリップの 2 人の友人は、実務演習で私たちのところに来ています。

彼女はジュリアンに会って興奮していました。彼はパメラ・アンダーソン基金がどうやったら一番効率的になるかアドバイスをくれたそうです。

「Vive la Cocotte」のショーでのエヴァ・ハーツェゴヴァ。ドレスがどんな風に揺れ動いたか今でもよく覚えています。メイクはマリー・グリーンウェル。ヘアはサム・マックナイト。